

◆令和4年5月定例会 内海 久子 議員 一般質問◆

◆はじめに◆

公明党大阪府議会議員団の内海 久子でございます。

初めに、新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになられた方々に心から哀悼の意を表しますとともに、現在療養中の方々の一日も早い御回復をお祈り申し上げます。

一般質問の機会をいただきましたので、通告に基づきまして、順次質問をさせていただきます。

〈1 流産・死産などによる深い悲しみを抱える方への支援について〉

〈1-1 流産・死産等で子を亡くされた家族への支援について〉

最初に流産・死産等でお子さんを亡くされたご家族への支援について、お伺いします。

パネル①開始本年2月8日に周産期グリーフケアはちどりプロジェクトの皆さまが赤ちゃんとお別れしたお母さん、お父さんへのアンケート調査結果報告書とそれに基づいた要望書を厚生労働大臣に提出し、その際、私も三浦府議と共に同席いたしました。

この報告書は妊娠中及び乳幼児期、生後1年未満の赤ちゃんと死別した897人の当事者の皆様のお声を届けたものです。

主な内容は「行政による二次的な傷つきを減らすための体制づくり」「相談窓口の設置」「情報提供の体制」「自助グループ、サポートグループとの連携・協働、支援」「医療への啓発と連携」などの7項目の要望です。**パネル①終了**

この要望が実り、厚労省の調査研究事業において、グリーフケアに関し、産婦人科医療機関と自治体との情報共有、連携の重要性等について記述された手引きが作成され、その活用を促す通知が4月8日に都道府県などに発出されたと聞いています。

グリーフケアについては、当事者に配慮したきめ細かい寄り添った対応や支援が大切であり、行政や医療関係者などの対応が記載されたこの手引きを関係者に周知するとともに、研修などで是非とも活用し、市町村職員等の人材育成を図ることが重要と考えますが、府の取り組みについて健康医療部長にお伺いします。

健康医療部長 答弁**〈1-2 当事者が孤立しないような情報発信等について〉**

次に、流産、死産等については大阪府のホームページでは、不妊症・不育症に悩む方への相談事業で記載されていますが、流産、死産等を経験した女性のすべてが不育症というわけではありません。不育症という冠ではこぼれ落ちる方々がおられます。

北海道のホームページでは、不妊・不育とは別に流産、死産を経験された方へのページを作成しており、相談窓口、自助グループへのリンクも記載されています。

相談窓口の設置や自助グループとの連携等と合わせ、流産・死産に特化したホームページの作成など、必要な方に必要な情報が行き届く取り組みが何より重要と考えますが、府の取り組みについて、健康医療部長にお伺いします。

健康医療部長 答弁**〈2 1型糖尿病幼児等の医療的ケア児の支援について〉****〈2-1 1型糖尿病幼児等の医療的ケア児の支援について〉**

次に、保育所や私学助成を受ける私立幼稚園における1型糖尿病幼児等の医療的ケア児の受入についてお伺いします。

我が会派では、これまで、代表質問等で医療的ケアについて取り上げてきましたが、医療的ケア児への理解を深め、障がいのある子どもたちと共生できる社会を実現していくためには、保育所や私立幼稚園に通う医療的ケア児が、安心して日々の生活を送れる受入体制の整備が求められています。

特に、日本の子どもの年間発症率が10万人に2人程度といわれている1型糖尿病を発症した乳幼児が保育所や幼稚園への入所を希望しても、園で看護師が配置されていないことなどにより受入れを拒否されたり、受入れ後も遠足などの行事に参加できないこともあると聞きます。

パネル②開始パネルをご覧ください。一型糖尿病は主に自己免疫によっておこる病気です。生活習慣病でも、先天性の病気でもありません。1型糖尿病は、血糖測定をしながら、一生涯にわたって毎日数回のインスリン自己注射またはインスリンポンプと呼ばれる医療機器による注入を続ける以外に治療法はありません。また、低血糖になり放置すれば命の危険があるので迅速な対応が必要です。血糖値を測ったりするのは医療行為なので看護師や保護者家族しかでき

ず保育士ではできません。

小児期を中心にどんな年代にも起こる原因不明の難病であることに加え、治療を厳密に行わないと心臓、腎臓、眼、神経等の合併症が併発しますので患者家族にとっての精神的、経済的負担は多大なものとなっています。 **パネル②終了**

パネル③開始 大阪府内には医療的ケアが必要な0歳から6歳までの子どもが、725人いると聞いております。そのうち、令和3年度に補助金を活用している保育所に通っている1型糖尿病の幼児が4人、私立幼稚園等に通っている医療的ケア児11名のうち血糖値測定インスリン注射を受けている幼児が、8名いると聞いております。 **パネル③終了**

保育所や私立幼稚園で1型糖尿病幼児を含む医療的ケア児の受入れには看護師の配置が必要と考えますが、保育所や私立幼稚園の中には、ケアを行える看護師の配置に必要な人件費が大きな負担となり、配置を進められず、保護者が付き添っているという声を聞きます。

また、医療的ケア児の受入経験がないことから日々の対応に不安や悩みを抱える職員もいると思われれます。

現在、大阪府では、医療的ケア児支援センターの設置に向け、検討を行っているとのことですが、保育所や私立幼稚園での医療的ケア児の受入を促進するためには、看護師を配置するなど、保護者が安心して子どもも預けられる環境が整備されていることが重要と考えます。

そこで、保育所や私学助成を受ける私立幼稚園において、医療的ケア児をしっかりと支援していく必要があると考えますが、福祉部長と教育庁の所見をお伺いします。

福祉部長 答弁

教育長 答弁

(2-2 保育所等において看護師を配置するしくみづくりについて)

ただいま、福祉部長並びに教育長から、保育所や私立幼稚園における医療的ケア児の支援に関する取組について答弁をいただきましたが、特に、医療的ケアを必要とする1型糖尿病の園児に対しては、看護師を配置するべきです。

今後、保育所や私立幼稚園において、医療的ケア児が安心して保育や教育が受けられるよう、看護師を配置するしくみづくりが必要と考えますが、知事の所見をお伺いします。

知事 答弁**〈3 働く世代からのフレイル予防について〉**

次に、働く世代からのフレイル予防についてお伺いします。

パネル④開始「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げる大阪・関西万博の開催地である大阪府として、生涯を通じて、心身ともに自立し、健やかで質の高い生活を送ることができるよう、年齢とともに心身の状態が衰え始める、いわゆるフレイルといわれる状態を予防することが重要です。**パネル④終了**

パネル⑤開始そのためには、適度な運動や必要な栄養素を食事ですっきりとすることなど、高齢になる前の40・50歳代の働く世代から生活習慣を改善することが重要とされており、令和元年9月定例会でも一般質問を行ったところで**パネル⑤終了**

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、おうち時間が増え、人と人とのコミュニケーションの機会が減っている現状を踏まえると、今こそしっかり取り組む必要がある課題と考えています。

大阪府では、「働く世代からのフレイル予防」として、平成30年度から国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所と事業を進め、令和2年度には全国知事会において優秀政策の健康福祉分野で第1位を受賞していますが、働く世代からのフレイル予防として、その後どのような取り組みを行ってきたのでしょうか。また、その成果をさらに府内で展開していくためどのような取り組みをしていくつもりでしょうか。健康医療部長にお伺いします。

健康医療部長 答弁**〈4 女性の視点からの防災について〉****（4-1 防災会議における女性委員の登用について）**

次に、防災会議における女性委員の登用についてお伺いします。

災害はいつ、どこで発生するか、誰が被害に遭うか、わかりません。人口の半分は女性であり、災害対策に女性の視点を反映することは、防災力の向上や、災害に強い社会の実現に繋がると考えます。

しかし、これまでの災害では、防災や復興等にかかる様々な意思決定過程に女性の参画が十分に確保されず、女性と男性のニーズの違い等への配慮不足が課題となっています。

実際に私は、東日本大震災が発生した翌月に、被災地である岩手県釜石市や大槌町を訪問しましたが、現地の避難所では、多くの女性が避難生活を送る中で、男女兼用のトイレ、更衣室や授乳室の不足、性暴力・DVへの懸念など、特に女性の過酷な生活環境を目の当たりにし、災害時における女性への配慮や女性の視点が必要だと強く感じました。

パネル⑥開始 都道府県では、災害対策基本法に基づき、1号から8号に区分された委員で構成する防災会議を設置し、災害対策全般にかかる地域防災計画を策定していますが、徳島県では、知事が職員から指名する5号委員に女性管理職を登用し12名中11名が女性委員に、また自主防災組織を構成する者や学識経験者から任命する8号委員についても21名全員が女性委員で、令和3年の地方防災会議における女性委員は、委員81名中39名、約48.1%で全国首位となっています。

一方、今年4月時点における大阪府防災会議の女性委員は、委員61名中8名、約13%に止まっています。 **パネル⑥終了**

そこで、女性の視点を踏まえた防災対策の推進に向け、大阪府防災会議に、さらなる女性委員の登用が必要だと考えますが、危機管理監の所見をお伺いします。

危機管理監 答弁

(4-2 防災における女性リーダーの育成について)

次に、防災における女性リーダーの育成についてお伺いします。

いつ起こるかわからない災害に備え、日頃から、男女共同参画・女性の視点を踏まえた多様なニーズに対応できる防災の取り組みを推進することが重要です。

例えば、地域住民が自発的に防災計画を作成する活動を応援するため、平成25年の災害対策基本法の改正において、住民等が地区の防災計画を策定し、市町村へ提案できる「地区防災計画」制度が創設されたところですが、計画の策定にあたっては、幅広い住民、とりわけ女性が参画し、女性の視点を取り入れるとともに、リーダーシップを発揮できる機会を作ることが重要です。

静岡県では、平成 25 年より、男女共同参画の視点から「女性防災リーダー養成講座」を開催し、受講後、修了証を交付するなどの取り組みを実施しています。

大阪府においても、女性防災リーダーの育成につながるような研修等を実施し、男女共同参画・女性の視点で防災を考え、地域で活躍できる人材育成に取り組むべきと考えますが、危機管理監の所見をお伺いします。

危機管理監 答弁

(要望)

都道府県防災会議の委員に占める女性の割合について、第5次男女共同参画計画では、2025年までに30%を成果目標としています。今後、早期に成果目標が達成されるようしっかり取り組んでいただきますようお願いしておきます。

<5 JR学研都市線の高架化について>

次に、JR学研都市線の高架化についてお伺いします。

パネル⑦開始 JR学研都市線の住道駅から忍ヶ丘駅間では、高架化がなされておらず、この区間には「開かずの踏切」を含む9箇所の踏切が残っており、沿線地域の交通の利便性や安全面に課題を抱えています。**パネル⑦終了**

このような状況から、私は踏切除却による交通渋滞や踏切事故解消のほか、市街地の一体的なまちづくりに大きく寄与する連続立体交差事業を実施する必要があるものと考えています。

本連続立体交差事業の実現に向けては、平成30年度に地元大東市が事務局となった勉強会を設置し、府もオブザーバーとして参加しており、これまで関係者で検討が進められているところです。

昨年5月の本会議において、私から連続立体交差事業の実現に向けた検討状況について質問したところ、これまで事業採択のための要件やまちづくりの方向性などについて議論され、昨年度には大東市と四條畷市において、事業規模や手法、まちづくりなどの検討する基礎調査を実施するとの答弁でした。

本年4月には、大東市及び大東市議団が国土交通省へ要望を行うとともに、昨年引き続き、今年度も地元両市が調査費用を予算計上するなどしており、このような地元の積極的な取組に対し、連続立体交差事業のノウハウを持つ府

の支援が今後より一層必要になっているものと考えますが、本連続立体交差事業の実現に向けた検討状況について、都市整備部長にお伺いします。

都市整備部長 答弁

(要望)

只今、引き続き、市の取組を支援していくという答弁がありましたので、よろしくお願いたします。

また、本連続立体交差事業が実現すれば、将来的に同じJR学研都市線の松井山手駅付近に設置される北陸新幹線の新駅との相乗効果で、周辺各市の交通便利性の向上、まちの活性化が期待されます。

今後も、引き続き、連続立体交差事業の実現に向けた検討を進めていくとともに、大東市においては住道駅・野崎駅間の新駅設置の可能性についても検討されていくと聞いているので、併せてご支援いただきますよう、お願いたします。

<6 芥川城・飯盛城跡の保存活用及び情報発信等について>

(6-1 芥川城跡の国史跡指定に向けての取組みについて)

次に、芥川城跡の国史跡指定に向けての取組みについてお伺いします。

私の地元、大東市・四條畷市にまたがる「飯盛城跡」は、戦国時代の城郭として貴重な遺跡であり、その重要性から昨年10月に国史跡に指定されました。

私は、これまで、飯盛城跡の国史跡指定の実現のため、地元の取組に対する府の支援等について、府議会で取り上げてきました。また、その中で、三好長慶が飯盛城に移る前に居城した「芥川城跡」のある高槻市など、三好長慶ゆかりの自治体が連携して機運醸成に取り組むことの重要性を訴えてきました。

戦国時代末期に近畿一円を治めた三好長慶が居城としたこの2つの城郭は、文献調査や発掘調査によって、戦国時代の大規模な城郭であることや、石垣等の遺構が現代まで良好に残されていること、また当時の京都に代わる政治の中核として機能したことが明らかとなっており、我が国の歴史において大変重要な遺跡といえます。

この芥川城跡についても、現在、高槻市において国史跡の指定に向けた取組が行われていると聞いています。

そこで、芥川城跡における国史跡指定に向けた現在の取組状況はどうなっ

いますか。また国史跡となった飯盛城跡、及び芥川城跡の今後の保存、活用の取組とそれに対する府の支援はどうなっていますか。教育長にお伺いします。

教育長 答弁

(6-2 飯盛城跡等の歴史遺産の魅力発信について)

最後に、飯盛城跡等の歴史遺産の魅力発信についてお伺いします。

パネル⑧開始大東市、四條畷市にまたがる飯盛城跡は、西日本最大級の山城であり、戦国時代の重要な遺跡として、本府にとっても貴重な歴史遺産であると考えます。**パネル⑧終了**

これまでも、府の補助金を活用して飯盛城跡を含む観光マップを作成する等の取組みを行ってきたと聞いていますが、**パネル⑨開始**昨年10月の国の史跡指定を受け、今年で三好長慶の生誕500年を記念して、大東市が飯盛城跡をコンピュータグラフィックスで再現したスマートフォンアプリにより、居城を仮想体験したほか、**パネル⑩開始**バーチャルリアリティでハイキングを楽しんだり、**パネル⑪開始**落語トークイベントが実行委員会により開催されるなど、地元でも大きな盛り上がりを見せております。**パネル⑪終了**

さらに、高槻市の芥川城跡においても国の史跡指定を受けるということになれば、三好長慶と関係の深い双方の山城の相乗的な魅力が生まれ、地域の活性化につながるのではないかと期待しています。

2025年には大阪・関西万博の開催も控えており、関係市町村や三好長慶の生誕地である徳島県とも連携して、その魅力を広く発信していくことが重要であると考えます。

については、こうした歴史的なつながりのある飯盛城跡や芥川城跡をはじめ、府内各地の魅力ある歴史遺産の情報発信について府としてどのように取り組んでいくのか、府民文化部長にお伺いします。

府民文化部長 答弁

(要望)

飯盛城跡や芥川城跡につきましては、三好長慶の生誕地である徳島県を含めた「面」での情報発信が有効であると考えます。そのためには、国史跡指定の機会を捉えて、これまでに全国各地で開催実績のある「山城サミット」を活用するののも一つの方法であると考えます。府においては、広域自治体として関係

市町村と協力して「山城サミット」の誘致に向けて取り組んでいただきますよう要望しておきます。

〈おわりに〉

以上をもちまして、私からの一般質問を終わらせていただきます。

御清聴ありがとうございました。